

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 034	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名 属人化を解消する牛受精卵移植等関連技術の標準化の検討について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 牛受精卵移植等関連技術については、牛の改良速度を高めることから、牛飼養農家にとって、経営改善につながる非常に有効な技術で、畜産技術センターでは受胎率向上等の様々な検討がされ、また、こうした技術開発と併せて、技術者育成の取組も進められていると認識しております。 現在、様々な分野で将来の人材不足が推測されており、本技術に携わる担い手確保についても同様に、牛飼養農家にとって非常に危惧される課題と思われます。そこで、より多くの技術者を確保するため、受精卵移植関連技術の属人化を解消する技術標準化に向けた課題の検討をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 供胚牛に対する効果的な過剰排卵処理方法の確立（平成27～令和5年度）			
対応の内容等 当所では、受精卵の採取、凍結保存、移植など牛の受精卵移植の基本技術を確立し、家畜保健衛生所や診療獣医師に技術伝達を行ってきました。受精卵移植は、人工授精に比べて高度な技術が求められ作業時間を要することなどから、技術者の負担を軽減した技術への見直しが必要と考えています。 当所では、供胚牛に対する過剰排卵処理の簡易化や省力化を中心に都道府県機関との共同研究に取組み、ホルモン剤の投与回数を削減した処理方法を開発しました。受精卵移植関連技術は複合的な技術であることから、そのほかの技術についても引き続き新しい手法の開発や器具の改良などの情報収集に努め、成績向上と技術者の負担軽減を目指した試験に取組みたいと考えています。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考 「ヒアルロン酸溶液を溶媒とした黒毛和種の過剰排卵処理方法の検討」第8回日本胚移植技術研究会講演要旨集 33, 2024			